

# 令和2年度 石井小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

### 【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に、豊かな心と健やかな体をもち、自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる、たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

### 【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し、目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために、次の「目指す学校像」、「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

### 【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校  
・分かる授業が展開され、一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校  
・認め合い、励まし合って、一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域と共に歩み、信頼される学校  
・保護者や地域との連携を強化し、協力し合って児童を育成する学校

### 【目指す教職員像】

- (1) 前向きで 熱意がある教職員  
・自らの使命を自覚し、意欲的に職務に励む教職員
- (2) 愛情をもって 子どもと向き合う教職員  
・教育的愛情をもち、一人一人のよさや個性を大切にしている教職員
- (3) 自己研鑽に努め 協働を大切にしている教職員  
・自ら進んで研修に励み、協力し合って職務を遂行する教職員

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、さらに認め伸ばし、豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努める。
- (3) 気力や体力を育む教育活動の充実に努め、生涯に渡って健康で安全に生活できる能力の育成に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち、サービスを厳守するとともに、進んで自己研鑽に励み、自らの資質を高め、さらに、協働の精神を大切に、教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 安心・安全に過ごすことのできる教育環境や落ち着いた生活できる潤いのある教育環境の整備に努める。
- (6) 家庭・地域社会との連携を密にし、地域の教育力を生かした信頼と協力を基盤とする「地域と共にある学校づくり」に努める。
- (7) 陽東地区内の小中学校が連携し、義務教育9年間を総合的にとらえ、児童生徒の心豊かでたくましく生きる力の育成を目指した教育活動の推進に努める。

### 【陽東地域学校園教育ビジョン】

「地域の教育力を生かし、地域とのかかわりを通して、  
確かな学力の定着を図り、心豊かでたくましく生きる子どもの育成」

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人権尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- (2) 心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「一人一人が優しさへの感性を豊かに備え、それぞれの可能性を最大限に発揮できる学校」を目指す。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実に目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実に努める。
- (4) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- (5) 前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【学 校 運 営】「地域協議会」との連携のもと、地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進                  (1)体力と気力増進 (2)確かな学力の定着 (3)豊かな心の育成 (4)地域と共に歩む学校づくり                  ○(5)地域学校園活動の推進 (6)教職員の資質の向上 (7)危機管理・環境整備の充実</p>
<p>【学 習 指 導】「自ら考え、ともに学び合う児童の育成」                  ～ 道徳科の授業研究を中心として                  ○(1)基礎・基本の確実な定着 (2)学習指導の工夫・改善 (3)読書活動の充実                  (4)家庭・地域との連携・協力</p>
<p>【児 童 生 徒 指 導】「自ら考え、適切な判断と行動ができる児童の育成～義務教育9年間の系統性を図った指導を通して～」                  ○(1)基本的生活習慣の育成 (2)規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3)望ましい集団づくり                  (4)個に応じた指導の充実 (5)家庭・地域・関係機関などとの連携</p>
<p>【健康(保健安全・食育)・体力】「自らの健康や体力についての理解を深め、進んでその向上に努める児童の育成」                  ～基礎体力の向上を目指した教科体育の充実、                  保健指導及び食育との関連を踏まえた保健学習・学級活動の充実～                  ○(1)望ましい食習慣の育成 (2)健康・体力の向上 (3)家庭・地域との連携協力</p>

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
目指す児童の姿	<p>A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。                  【数値指標】                  全体アンケート                  「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答                  ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 児童にとって「できた」「分かった」が実感できる授業展開を工夫する。                  ② 「石井っ子の学習」に基づいた基本的な学習態度の徹底を図り、学び方を身に付けた児童を育成する。                  ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業研究会・一人1授業などを積極的に行い、指導力の向上に努める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>95.4</td> <td></td> <td>92.9</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が7.9ポイント上回った。                  「石井っ子の学習」や地域学校園共通の「学習の約束」を各教室に掲示し、基本的な学習の約束を児童に意識させた。                  【次年度の方針】                  ・学習指導において、「めあて」から「振り返り」まで一貫した学習指導を展開し、児童が進んで学習に取り組む態度を育てていく。                  ・新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を進める。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	95.4		92.9
	教職員	保護者	地域住民	児童								
100	95.4		92.9									
<p>A2 児童は、思いやりの心をもっている。                  【数値指標】                  全体アンケート                  「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答                  ⇒児童 85%以上                  ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 道徳科の授業だけでなく全ての教育活動において体験活動を重視し、思いやりの心を育む。                  ② 人権教育年間指導計画に基づき、人権教育の推進と人権週間の取組の充実を図る。                  ③ 児童会活動や縦割り班活動を通して、互いを思いやる心を育む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.1</td> <td>90.2</td> <td>100</td> <td>89.6</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が4.6ポイント上回った。教職員の肯定的回答が9.1ポイント上回った。                  縦割り班活動においては、2学期後半から取り組み始めたが、回数を重ねるごとにそれぞれの学年において成長が見られた。                  【次年度の方針】                  ・一層の道徳教育・人権教育の充実を図る。                  ・年間2回の「ほめほめカード」を活用し年2回実施し、児童の自尊感情を醸成する。                  ・新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、児童会活動や縦割り班活動を実施し、思いやりの心を育む。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	90.2	100	89.6	
教職員	保護者	地域住民	児童									
94.1	90.2	100	89.6									

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実を図り、基本的な生活習慣育成の徹底を図る。</p> <p>② 生活当番組織を活用し、日常生活の指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>91.2</td> <td>92.7</td> <td>100</td> <td>82.7</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が6.2ポイント上回った。児童の肯定的回答率が2.3ポイント下回った。 児童の回答率が他と比べて低いことから、よりよい生活に必要な基本的な生活習慣について、指導・支援を行っていく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「石井っ子の生活」に基づいた望ましい姿について、朝の学習時や学級会活動においてテーマとして取り上げ、啓発を促す。</li> <li>・生活当番組織を活用し、日常生活について全校体制で指導する。</li> <li>・一人一人の児童について、教職員の情報共有の工夫をし、一層の共通理解を図る。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	91.2	92.7	100	82.7
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	91.2	92.7	100	82.7							
<p>A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 児童会を中心とした、子供たちの自主的なあいさつ活動を奨励する。</p> <p>② 地域学校園、家庭や地域ぐるみのあいさつ運動を実施し、日常的なあいさつにつなげる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>88.2</td> <td>72.3</td> <td>94.1</td> <td>90.8</td> </tr> </table> <p>数値指標は、地域住民の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が5.8ポイント上回った。 児童会を中心に、昇降口であいさつ運動を行い、気持ちの良いあいさつを奨励した。保護者の回答率が低いことから、コロナ禍であっても、あいさつのよさを共有し、「あいさつの習慣化」につながる取組が課題となる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、あいさつの習慣化に向けて、児童会と連携して啓発活動を実施していく。</li> <li>・各取組について、各種便りやHPに掲載し、保護者や地域住民への情報発信を継続して実施する。</li> <li>・家庭でもあいさつのよさが広がるように「あいさつ週間」を設け、「あいさつカード」を活用する。</li> <li>・登校時間に合わせ、校門や昇降口であいさつ運動を実施し、進んであいさつをすることを奨励し、学校外でも進んであいさつができる児童を育成する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	88.2	72.3	94.1	90.8	
教職員	保護者	地域住民	児童								
88.2	72.3	94.1	90.8								
<p>A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学習・生活面において自分の成長・達成感が味わえるような目標を設定し、目標達成に向けた支援を行う。</p> <p>② 児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。</p> <p>③ 道徳の授業において、目標に向かって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.1</td> <td>81.3</td> <td></td> <td>87.6</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が2.6ポイント上回った。 教職員や児童と保護者の肯定的回答率に差がある。学校の取組や児童の姿を周知する機会を設ける必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も「ほめほめカード」の活用や帰りの会で児童のよさを称賛する場を確保するなど、個の良さが認められる取組を継続して実施する。</li> <li>・「キャリアパスポート」を活用し、目標実現に向けた具体的な方法を想起させ、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせる。</li> <li>・教科体育の中で、できたことを褒め合う場を積極的に取り入れる。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	81.3		87.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	81.3		87.6								

目 指 す  児 童 の 姿	<p>A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、家庭科、給食、学校行事と関連を図った指導を行う。</p> <p>② 自分の身の安全を守る力を身に付けるため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.2</td> <td>92.2</td> <td>100</td> <td>88.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が6.2ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が7.2ポイント上回った。 新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、交通安全教室・避難訓練を実施した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に行動できる態度や自ら危険予測をする能力などが身に付くように、特別活動で交通安全教室や各種の災害を想定した避難訓練を実施するとともに、日常的な児童指導と合わせて指導する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	91.2	92.2	100	88.5
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	91.2	92.2	100	88.5							
<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、夢や目標の実現に向けて粘り強く取り組めるような場を意図的に設ける。</p> <p>② 道徳科の授業や特別活動において「感謝」「公共の精神」について考え、ボランティア活動への意欲を高める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>81.3</td> <td></td> <td>87.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が3.7ポイント下回った。児童の肯定的回答率が2.6ポイント上回った。教職員と保護者の肯定的回答率に差がある。キャリア教育の充実に向けて具体的な取組が必要である。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートの有効的な活用方法を考え、学習内容に応じて実施状況や達成状況の振り返りを行い、各学年で計画的に取り入れる。</li> <li>・教育課程を精選し、実態や発達段階に応じた体験活動を充実させ、粘り強く取り組むことの大切さについて実感をともなって学べるようにする。</li> <li>・6年生の奉仕作業など、児童のボランティア活動の様子学校便り等で保護者に周知する。</li> <li>・道徳の時間において、「感謝」や「奉仕」に係る価値項目を重点的に行い、児童の道徳性の育成や社会に貢献しようとする態度を養う。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	81.3		87.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	81.3		87.6								
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 英語で伝え合うことの楽しさを実感するために様々な体験的活動を取り入れ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>② ALTの活用による、児童とのコミュニケーションの場を積極的に設定する。</p> <p>③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td></td> <td></td> <td>87.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が2.7ポイント上回った。 児童の肯定的な回答率は高いが、英語でのコミュニケーションについて自信が持たず消極的な態度になっている児童がいる。ゲーム的要素を取り入れながら、繰り返し練習することができる学習活動を展開していく必要がある。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTとの連携により、英語を使った学習活動に対して肯定的に捉えていることが伺えるので、今後も継続して、校内研修や教職員同士が学び合う機会を取り入れ、教師の指導力の向上を図る。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1			87.7	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1			87.7								

指 す 児 童 の 姿	<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。</p> <p>② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>63.4</td> <td></td> <td>81.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が3.8ポイント下回った。 今年度より「宇都宮学」が始まり、自分たちの住む町(市)への意識が高まった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科(道徳科・図画工作科)との関連を見出し、宇都宮の良さを系統的に学習できるようにする。</li> <li>教師自身が宇都宮の良さについて知ることができるような、教材研究や職員研修等の機会を設ける。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	63.4		81.2
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	94.1	63.4		81.2							
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 各教科、総合的な学習の時間において、パソコン・タブレットを有効に活用する。</p> <p>② ICT機器の授業における活用法など、研修等を通して教員の指導力の向上を図る。</p> <p>③ 授業内容に関連した教育図書の整備充実や、学校図書館の環境整備に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>71.8</td> <td></td> <td>84.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が0.7ポイント下回った。 教科等の学習で図書利用が多かった。教科の学習に関連した図書は、公共図書館からの貸出も利用し、授業での図書利用の幅が広がった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用した学習の様子やGIGAスクール構想等について、各種の便りで家庭に周知を図る。</li> <li>各教科の教科書に記載された関連図書や調べ学習などで必要な図書をされに整備する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症感染予防のため図書室内で調べ学習をすることは停止している。今後、感染症の状況に応じた学習環境の整備に努める。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	71.8		84.3	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	71.8		84.3								
<p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 高齢者への感謝やいたわり的心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。</p> <p>② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を通して、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを育む。</p> <p>③ 敬老の日に合わせて、地域の高齢者への手紙を作成し、交流を深める取組を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>90.2</td> <td>100</td> <td>89.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が4.6ポイント上回った。 新型コロナウイルス感染防止のため、地域の協力者を招待しての感謝の会は実施せず、児童が地域の方々へ感謝の手紙を書くことで日頃からの活動に対して感謝の気持ちを表した。敬老の日に合わせ、児童一人一人が地域の高齢者に対して手紙を書き、高齢者の皆さんに感謝の意を伝えた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「思いやり」の心を育むため、道徳科で計画的に題材を扱い、道徳性を養う。</li> <li>人権週間に「ほめほめカード」の取組を継続し、感謝の気持ちや人権を尊重する心を育成する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の状況により、十分に安全対策を図りながら体験活動や交流会も実施する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	90.2	100	89.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	90.2	100	89.6								

<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、実践できる場を設定する。</p> <p>② 自分の身の安全を守ることへの意識を高めるために、各種災害を想定した避難訓練等を実施する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 145 1476 224"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>76.5</td> <td></td> <td></td> <td>86.0</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が8.5ポイント下回った。児童の肯定的回答率が1.0ポイント上回った。 外部機関からいただいた資料を授業で扱うなどして、「持続可能な社会」についての知識を深めた。</p> <p>【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間、家庭科、社会科における環境教育を通して、環境問題への関心を高め、児童が自ら取り組める行動を考える場を設定する。 ・「持続可能な社会」について、職員研修や授業研究で環境教育に関する実践をしたり、関係資料を紹介したりするなどして研究する。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	76.5			86.0
教職員	保護者	地域住民	児童							
76.5			86.0							
<p>B1 児童は、進んで体力づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、休み時間や放課後に進んで体を動かしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 75%以上</p>	<p>① 体育等の授業において、自主的な体力づくりにつながるような学習内容を工夫する。</p> <p>② 各種検定やミニマムを活用し、休み時間や放課後等に児童が進んで体力づくりに取り組む意欲がもてるよう努める。</p> <p>③ 学級活動、保健学習、食育教育などを通して、体を動かすことの大切さに気付かせ、意欲付けにつなげる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 676 1476 754"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.1</td> <td>75.1</td> <td>81.5</td> <td>90.0</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が9.9ポイント下回った。児童の肯定的回答率が5.0ポイント上回った。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、3密等を回避するため、休み時間の外遊びや体育の授業における運動内容や方法の精選を図った。 安全面を優先する必要があることから、自由にのびのびと体を動かす機会が減った。</p> <p>【次年度の方針】 ・国や市から出される新型コロナウイルス感染症対策やガイドラインに沿って、児童の安全面を確保し、感染症の状況に応じて体育の授業を実施する。 ・安全面に配慮しながら日常的な外遊びを奨励し、運動の楽しさを味わわせる活動を重視していく。 ・うつのみや元気っ子チャレンジ、元気っ子健康体力チェックや各種検定カードを活用し、年間を通じた基礎体力の増強を図る。健康・体力の保持、増進への意識を高め、学校以外での運動促進などにもつなげていく。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	75.1	81.5	90.0
教職員	保護者	地域住民	児童							
94.1	75.1	81.5	90.0							
<p>B2 児童は、家庭においても家庭学習や読書の習慣が身についている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、家庭でも、家庭学習や読書の習慣が身に付いている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。</p> <p>② 朝の読書や読み聞かせ、図書館司書によるブックトークなどで読書意欲を喚起し、家庭での読書につなげるよう努める。</p> <p>③ 家庭学習強化月間や読書週間を設定し、各種便りなどで保護者に家庭での習慣化について働きかける。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 1370 1476 1449"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.1</td> <td>72.2</td> <td>87.0</td> <td>86.8</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が12.8ポイント下回った。児童の肯定的回答率が1.8ポイント上回った。 新型コロナウイルス感染症による2か月の学校休校により家庭学習が2か月に及び、例年通りの計画が遂行できなかった。</p> <p>【次年度の方針】 ・学年だよりや学習だより、懇談会等で家庭学習や家庭における読書活動について啓発を図る。 ・進んで読書に親しむ態度の習慣化を図るため年度初めの意識づけを図る。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	72.2	87.0	86.8
教職員	保護者	地域住民	児童							
97.1	72.2	87.0	86.8							

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画を作成・活用するとともに、必要に応じてケース会議等を行い、組織全体で指導にあたる。</p> <p>② ユニバーサルデザインのよさを意識した授業を展開し、適切な支援に努める。</p> <p>③ 通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が12.1ポイント上回った。 今後も組織的に対応する校内体制の充実を図る。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援や合理的な配慮が必要となる児童の実態を把握し、児童の実態から適正な個別の支援計画を作成・活用する。</li> <li>・必要に応じてケース会議等を行い、校内体制を充実させ、組織的に対応する。</li> <li>・適切な支援となるように、研修等で「ユニバーサルデザイン」を生かした授業の在り方を学び、実践を続けることで授業者のスキルアップを図る。</li> <li>・通級学級においても個別の支援計画を作成し、児童の実態に基づく合理的な配慮を伴う指導・支援に努める。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	97.1										
<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、「いじめをしない、させない、許さない」心を醸成する指導の充実を図る。</p> <p>② いじめアンケート(年4回)、教育相談等による早期発見、早期対応に心掛けるとともに、全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。</p> <p>③ 「いじめゼロ強調月間」や児童会の「いじめゼロ集会」などの場を適切にとらえ、随時積極的な指導を展開する。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.1</td> <td>82.4</td> <td>96.3</td> <td>97.0</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が2.6ポイント下回った。児童の肯定的回答率が12.0ポイント上回った。 保護者の回答率が他と比べて低いことから、学校での取組が認知されていないことが伺える。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も、児童の実態の把握と早期解決に向けて「いじめのアンケート」や教育相談を適宜実施する。</li> <li>・児童の実態に応じて「校内支援委員会」を立ち上げ、課題に対して組織的に対応できるよう校内体制の充実を図る。</li> <li>・学校HPや各種便りを活用し、いじめ対策についての取組を示すとともに、家庭や地域と連携して、いじめは許されない行為であることを共有していく。</li> <li>・懇談会や各種のたよりを活用し、「ほめほめカード」の実践などを周知する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	82.4	96.3	97.0	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.1	82.4	96.3	97.0								
<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、居がいのある学級づくりに向けて認め励ます指導に努める。</p> <p>② 教育相談、アンケート、QU調査等の結果を活用し、不登校の兆候や傾向の児童に対し校内体制で支援を行うとともに、家庭と連携を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.1</td> <td>93.3</td> <td></td> <td>94.7</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が9.7ポイント上回った。 不登校や不登校傾向にある児童に対し、児童に寄り添い、保護者との連絡を密にしながら、丁寧な対応を行った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居がいのある学級となるように、児童が活躍できる場面や互いに認め合う場を確保する。</li> <li>・自己のよさを知り、意欲的に次時の活動に取り組むことができるように、学習や活動に対する振り返りの場を設定する。</li> <li>・教育相談やいじめアンケート、家庭への連絡など、児童に寄り添う場や取組を活用し、問題行動の早期発見・早期解決に努める。</li> <li>・問題行動に対して学年会やケース会議、校内支援委員会などを立ち上げ、校内体制を整えて早期解決に努める。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	93.3		94.7	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.1	93.3		94.7								

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 外国人児童について全校で共通理解を図り、個々の実態に応じた指導、必要な支援を組織的に行う。</p> <p>② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。</p> <p>③ 必要に応じて外部機関との連携を図り、本人だけでなく、家族に対しての支援体制も整える。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の定的回答率が12.1ポイント上回った。 日常的に児童理解に努め、職員間の共通理解を図りつつ、個々の実態に応じた指導や支援を行った。 【次年度の方針】 ・道徳や学級活動を通して、人権感覚の醸成を継続的に行う。 ・校内支援委員会を活用し、児童の実態と児童理解を深め、必要な支援について協議しながら全校体制で対応する。 ・児童や保護者の実態に応じて、専門機関との連携を図る。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	97.1										
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、児童の思いを生かした、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。</p> <p>② 子供たちがいきいきと活動できる学級づくりに力を入れる。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>93.5</td> <td>97.2</td> <td>89.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が8.5ポイント上回った。児童の肯定的回答率が4.2ポイント上回った。 本年度は行事が削減された中でも、学年学級で充実した活動が行われてきたと推測される。普段から、児童のよさを生かし、自治的に行う活動を積極的に取り入れていることが肯定的な回答につながった要因と捉える。 【次年度の方針】 ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、十分な安全対策を図り、活動方法を工夫しながら行事を実施し、児童の思いを汲むことにより学級経営の充実を図る。 ・各学年学級だけでなく、学校全体としての行事を実施することで、児童がいきいきと活動する機会を確保する。 ・児童が主体となり、自治的に取り組む活動を適宜に取り入れ、児童にとって安心し、居がいを感ずることのできる学級づくりに努める。 ・学級づくりに関する様々な取組を学校全体で共有するため、教職員のネットワークシステムを利用して効率的に情報の共有を進める。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	93.5	97.2	89.2	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	93.5	97.2	89.2								
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 学校課題を中心とした全校体制による授業研究・一人1研究を通して、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。</p> <p>② 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。</p> <p>③ 朝の学習を活用して基礎学力の向上を図る。(石井道場を含む)</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>89.9</td> <td></td> <td>96.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が11.6ポイント上回った。 児童一人一人の学習状況を的確に把握し日々の授業の中で「分かる・できる授業づくり」に取り組んだ結果と推測される。 【次年度の方針】 ・個に応じた支援の充実を図る。 ・児童の実態に応じた学習支援を行う石井道場を計画的に運営する。 ・学力テスト等の結果を分析し、児童の学力について成果と課題を把握するとともに、各学級の学習指導に反映させる。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	89.9		96.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	89.9		96.6								

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 教職員がチームとしての意識を醸成するための関係づくりに努める。</p> <p>② 目標達成、課題解決に向けて学校全体の共通理解の下、連携・分担組織を活用して業務に取り組む</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>82.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が2.6ポイント下回った。新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事を中止した。教職員がチームとなり協力して取り組む行事が少なくなり、同僚性の向上を図ることが困難な状況となった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ほう(報告)・れん(連絡)・そう(相談)」を一層徹底して、協働性・同僚性を高める。</li> <li>・全教職員が一致協力して行事等に当たることで、情報発信や情報共有の機会を確保し、学校教育目標の実現に向けて一人一人の意識の高揚を図る。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	82.4			
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	82.4										
	<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。</p> <p>② 一人1スリム化の提案、行事の精選を行うと共に、事務職員の視点で業務改善に取り組みスリム化を図る。</p> <p>③ 職員の業務の負担軽減に向けて、学校支援ボランティアの活性化を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>79.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が5.6ポイント下回った。業務改善による勤務時間や負担軽減が実感に至らなかった。さらに新型コロナウイルス感染症拡大防止による2か月間の休校の影響で、日課の変更や学習指導等の見直しなど例年にならぬ業務も加わり負担を軽減するには至らなかった。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部人材(学校支援ボランティア等)の効果的な活用をより一層図る。</li> <li>・職員の業務の負担軽減に向けて、教職員一人一人の意識改革を目指す。</li> <li>・定期的に勤務時間の実施について、教職員が振り返りを行い、メンタルヘルスの維持に努められるようにする。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	79.4			
教職員	保護者	地域住民	児童								
79.4											
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 学校園のテーマに基づき分科会・教科部会で重点化を図り、協働体制で取り組み小中一貫教育を推進する。</p> <p>② 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。</p> <p>③ 「小中一貫教育 地域学校園」の取組を学校だよりや学校ホームページ等で地域、家庭に伝える。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>91.2</td> <td>86.4</td> <td>96.2</td> <td>60.8</td> </tr> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が6.2ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が1.4ポイント上回った。</p> <p>取組内容を学校だよりや学校HP等で発信することは効果的であったと考えられるが、児童への周知という点では別の方策が必要であるとする。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策の範囲内で地域学校園内の小中学校と連携しながら、各部会・分科会で協働しながら取組の充実を図るとともに、保護者や地域へ取組内容等を学校HP等を利用し発信する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	91.2	86.4	96.2	60.8	
教職員	保護者	地域住民	児童								
91.2	86.4	96.2	60.8								
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 石井小学校地域協議会(きずな)を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。</p> <p>③ 本校の特色ある教育活動である実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習の実施に向けて、地域協議会と連携し、計画的に地域の教育力を生かす取組を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>97.1</td> <td>89.6</td> <td>93.3</td> <td>85.1</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が4.6ポイント上回った。地域住民の肯定的回答率が8.3ポイント上回った。</p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で様々な活動が制約されたが、保護者や地域の方々の協力を得られた。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策の範囲内で地域の教育力を十分活用できるように、地域協議会との連携をとりながら教育活動を推進する。</li> <li>・学校協力者と一層の連携を図り、実感体験学習、心交流学習、地域郷土学習、未来夢学習を実施する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	89.6	93.3	85.1	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.1	89.6	93.3	85.1								

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上</p>	<p>① 校内での安全確保や、各教科における授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。</p> <p>② 地域協議会等による地域人材の発掘や地域人材・学生ボランティアの効果的な活動を通して、地域と連携・協力した学習活動の推進を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.1</td> <td>89.6</td> <td>93.3</td> <td>85.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が4.6ポイント上回った。地域住民の肯定的回答率が8.3ポイント上回った。児童の安全を見守るボランティアの方々の協力的な活動が行われた。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度、新型コロナウイルス感染症対策を図りながらボランティアの活用を図ってきたが、このことをもとに学習活動に必要な支援を充実させるために、活動内容を整理し、人材の確保をする。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	97.1	89.6	93.3	85.1
	教職員	保護者	地域住民	児童							
	97.1	89.6	93.3	85.1							
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。</p> <p>② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>93.5</td> <td>100</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が15ポイント上回った。保護者の肯定的回答率が8.5ポイント上回った。各種点検を適正に実施した。児童の安全に係る各種訓練は、新型コロナウイルス感染症対策を図り、全て実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策は、学校医や教育委員会等の専門的な知見を持つ関係者からの指導に基づいて実施した。</p> <p>【次年度の方針】 ・毎月安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕を継続して行う。 ・危険箇所等、気付いたときには、すぐに報告し、改善や修繕することにこれからも継続して取り組む。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	93.5	100		
教職員	保護者	地域住民	児童								
100	93.5	100									
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上</p>	<p>① 教科・領域等に関連した教育図書の整備充実及び市図書館の活用を図り、学校図書館の環境整備の充実に努める。</p> <p>② 授業で活用できるICT機器の整備に努め、活用法を探ると共に、全ての教員が有効に活用できるよう研修等を行う。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.1</td> <td>71.8</td> <td></td> <td>84.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>数値指標は、教職員の肯定的回答率が9.1ポイント上回った。児童の肯定的回答率が0.7ポイント下回った。教科等で必要な図書をリストアップし、計画的に図書室の整備を図った。</p> <p>【次年度の方針】 ・新型コロナウイルス感染対策を図りながら、授業（調べ学習等）や休み時間に図書室をより安全に利用できる環境を整えたい。 ・日常的にICTを活用して授業をしている様子を各種のたよりや学校HP等により家庭に周知する。 ・一人1台配備されるタブレット型PCの利用を促進する。</p>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	71.8		84.3	
教職員	保護者	地域住民	児童								
94.1	71.8		84.3								

<p>B3 学校は、より良い教育環境作りに向けて子供たちと共に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は、楽しくやる気が起きる環境を整えようとしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上</p>	<p>① 様々な教育活動において、子供たちが生き生き活動し、活躍できる場の設定を行う。</p> <p>② 教室内外において、子供たちの活動や意欲を喚起する環境作りを子供たちと共に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 147 1476 226"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>94.1</td> <td>91.1</td> <td>93.1</td> <td>90.2</td> </tr> </table> <p>数値指標は、児童の肯定的回答率が5.2ポイント上回った。 新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制約がある中で、子供たちのために担任始め教職員が協力しながら活動の工夫に取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組をもとにして、児童が主体的に活動するために、教職員が協力しながら活動を工夫する。</li> <li>・児童が主体的に取り組む、居がいのある学級であると感じられるように、教室内の掲示物を整え、物品を整備する。</li> <li>・児童が向上心や達成感を得ることができるようにクラス目標や学習に関係する写真、授業で作成した作品等を閲覧・鑑賞できるようにする。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	94.1	91.1	93.1	90.2
教職員	保護者	地域住民	児童							
94.1	91.1	93.1	90.2							
<p>B4 教職員は、児童にとって学校生活が楽しく、居がいのある学校づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 学校独自アンケート 「先生たちは、学校生活が楽しくなるよう工夫してくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上</p>	<p>① 児童の実態をとらえ、一人一人が学習や様々な活動を通して居がいを感じられるよう授業や学校行事などを工夫するよう努める。</p> <p>② 児童が充実感や達成感を感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。</p>	<p>【達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="1034 712 1476 790"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> <tr> <td>100</td> <td>88.6</td> <td>100</td> <td>94.2</td> </tr> </table> <p>数値指標は、保護者の肯定的回答率が3.6ポイント上回った。児童の肯定的回答率が9.2ポイント上回った。 コロナ禍の中でも様々な行事を工夫して実施したことで、児童の肯定的回答が高くなったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の経験を生かし、授業や学校行事の後に振り返りを行うことで充実感や達成感を実感させる。また、「ほめほめカード」等の取組により居がいを感じる場を意図的に設定し、自分の成長を実感できる取組を進める。さらに、家庭にも児童の様子を伝え、成果を共有する。</li> </ul>	教職員	保護者	地域住民	児童	100	88.6	100	94.2
教職員	保護者	地域住民	児童							
100	88.6	100	94.2							

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

アンケートの結果から、学校の教育活動全般にわたり、一定の肯定的評価を得られたものと捉える。

「目指す児童の姿」に関する項目では、14項目中9項目で数値目標を達成した。

そのうち、A1「進んで学習」、A2「思いやりの心」、A6「健康や安全」、A11「高齢者に対する感謝やいたわりの心」については、児童、保護者、地域、教職員の全て対象から肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。

「目指す学校の姿」に関する項目では、14項目中10項目で数値目標を達成した。

そのうち、A13「特別な支援を必要としている児童の実態に応じた適切な支援」、A15「不登校を生まない学級経営」、A16「外国人児童等の実態に応じた適切な支援」、A17「学校の活気や明るさ」、A18「教職員による学力向上」、A24「安全な学校にむけた環境づくり」、B3「楽しくやる気のでる学校づくり」については、児童、保護者、地域、教職員の全て対象、もしくは評価を得た対象の全てから肯定的回答率90%程度以上の高い評価を得た。

「本校の特色・課題等」に関する項目では、B4「児童が学校生活に居がいを感じられるような工夫」1項目について、数値目標を達成した。児童、地域、教職員から肯定的回答率90%以上、保護者から肯定的回答率88%以上の高い評価を得た。

本年度は、昨年度と比較し、児童の肯定的回答率が低下傾向にある。新型コロナウイルス感染症による影響や感染症対策により、これまでの経験したことのない学校生活を余儀なくされる中、保護者・地域の皆様と連携・協力を図りながら、本校教職員は、児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに、児童とのふれ合いを通して、認め伸ばし、豊かな心の育成に努めたり、一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら、「楽しく、分かる授業」を展開し、基礎・基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力など確かな学力の育成に努めたりしてきたことによる成果と考える。

個々の項目については、児童、保護者、地域、教職員のうち、いずれかの対象の肯定的回答率が80%以下の項目は以下のとおりである。

「目指す児童の姿」に関する項目では、A4「時と場に応じたあいさつ」、A9「宇都宮市の良さの理解」、A10「ICT機器や図書等の活用」、A12「持続可能な社会への関心」、B1「進んで運動」、B2「家庭における学習・読書習慣」の6項目となった。

「目指す学校の姿」に関する項目では、A20「教職員の勤務時間、業務の効率化」、A21「小中一貫・地域学校園の取組」、A25「ICT機器や図書等の整備」の3項目となった。

「あいさつ」については、保護者の肯定的回答率が80%を下回っている。学校内で生活する際には、明るく元気なあいさつをする姿が見られる。登下校時等の地域での様子や家庭におけるあいさつの様子について課題があると考えられる。今後、学校における指導については、学習規律や日常生活面の指導において、返事やあいさつの指導を一層徹底して行っていきたい。また、道徳の授業においては、心の教育を行い、あいさつや返事に対する学習を行い、道徳性の向上を目指していきたい。また、保護者や地域関係者とも連携し、家庭や地域におけるあいさつ指導についても啓発活動を進めたい。

地域学習や情報活用能力、SDGs等、今日的な課題に対しての教育については、具体的な方策を講じ、教育実践をしてきたところである。今後、学校の教育活動について、さらに創意工夫を凝らしながら取り組んでいくとともに、児童の活動の様子等については、各種のたよりや学校HP等を効果的に活用し、家庭や地域に積極的に情報を発信していくことにより、理解がえられるようにしていきたい。

## 7 学校関係者評価

- ・ 新型コロナウイルス感染症感染防止のため、友達と自由に遊んだり自由に会話したりすることなどに制限がある生活となったが、一方で、じっくりと本を読む時間が増えたところも見受けられた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、子供たちの様子がおとなしかったが、少しずつ元気になってきたように見える。地域でもしっかりと支援していきたい。
- ・ 学校においては、新型コロナウイルス感染症について、拡大防止策等がしっかりと行われている。
- ・ 石井地区においては、新入生が増加する傾向にあるが、今後、少子化の影響で児童数が減少傾向になってくると思われる。
- ・ 児童から学校の教職員について話を聞くところでは、とてもしっかりやっていると評価できる。
- ・ 家庭の教育は大切である。また、教職員の資質、特に人間性は重要であることから、教職員が心の面でも向上し、元気に働ける環境づくりが重要と考える。学校管理職が教職員の様子をしっかりとマネジメントすることが重要である。
- ・ 不登校対策は難しい課題であるので、学校全体で組織的に対応していくことが重要である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、外で遊ぶ時間が減少したが、今後、状況の改善とともに、積極的に運動に取り組む児童の育成が望まれる。
- ・ 教職員は、新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、児童の健全育成にしっかりと向き合っている。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策としては、感染防止対策の徹底と合わせて、人権教育についても、校内におけるシトラスリボン運動等を継続しながらしっかりと取り組んでいく。  
本年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学習指導や学校行事等に当たっては、学習活動の自粛や学習内容の縮小等が余儀なくされたが、児童が学校において学びを得る機会の確保のため、一斉に介していたものについては、時間や場所を分散したり、計画の改善を図ったりするなどの工夫をして実施した。今後とも、健康安全対策を図りながら、1人1台端末の活用を図るなど創意工夫をしながら児童の資質・能力の育成に努める。
- ・ 各学級における道徳科の授業において、年間指導計画に基づき計画的に「生命の大切さ」、「思いやり」に係る題材について授業を行い、児童の道徳性の涵養を図っていく。  
また、校内のアンケートや全市で一斉に実施する『楽しい学校生活を送るためのアンケート』を実施し、子供たちの友人関係や心の状況の把握に努めるとともに、アンケートに表れた子供たちの不安や問題を解消するために教育相談等を実施することにより、いじめの早期発見・早期対応を行っていく。また、日常生活指導においても児童が安心して学校生活を送れるよう児童の様子について情報共有を図り、児童指導を組織的に行っていく。
- ・ 本校児童は、自己肯定感が高い状況にあることから、引き続き、一人一人のよさを認め励ます取組を行い、児童の自己肯定感をさらに高めることにより、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組む力を育成していく。
- ・ 児童の「あいさつ」に関する指導については、学校での指導を工夫していくとともに、家庭でのあいさつ（「ただいま」など）について、家庭内でのあいさつの向上についても意識の向上に向けた取り組みを進めていく。
- ・ 目指す教職員像にせまるため、居がいのある学校づくりを進めることで、教職員の協働性や教職員の自尊感情を高めていく。また、信頼される教職員のなるため、いじめや不登校等の課題に対して組織体制を整えるとともにチームワークを

高めていく。さらに、教職員が勤務時間を意識した働き方や業務の効率化を図れるよう対策を講じていく。

- ・ 本校の特色ある教育活動を一層進めていくため、人との触れ合いから、働くことの大切さや命の尊さを感じ取り、夢を抱かせ、将来への希望を高め、実現に向けての意識と態度を育成し、長期的にも短期的にも「自分はこうなりたい」と夢を持つことができる児童を育成するため、「未来夢学習」については重点的に推進していく。

そのために、キャリア教育との関連を図り、各種教育計画の計画立案段階から育成を目指す資質・能力に「夢」を関連付けさせていく。

- ・ 石井小学校地域協議会等、石井地区の各団体からの支援により、年間を通してさまざまな教育活動に協力をいただき教育活動の充実が図られている。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、校内見回りボランティアについては見合わせたが今後再開していく。また、スクールガードの皆様によるパトロール活動、地域の方による登下校時の防犯パトロールや見守りなど、多くの皆様による日々の協力により、児童の安全が守られた。今後も、不審者情報をスクールガード隊員と共有し、個別のパトロール強化を図っていく。新型コロナウイルス感染症感染防止策をしっかりと講じながら、地域協議会事業を推進し、校内の学習支援の充実や校内の環境整備を図っていく。